

平成 20 年（2008 年）のアトサヌプリの火山活動

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○2008 年の活動概況

・火口や噴気の状況（図 1～8）

7月8日、7月10日に現地調査を実施しました。また3月12日、4月16日、8月21日には北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。アトサヌプリ溶岩ドームでは噴気活動が続いており、点在する複数の噴気孔から白色の噴気が1～10m程度上っていました。それぞれの噴気温度は100～110℃（直接測定）で、これまでと比較して変化はありませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測でも、特段の変化は認められませんでした。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

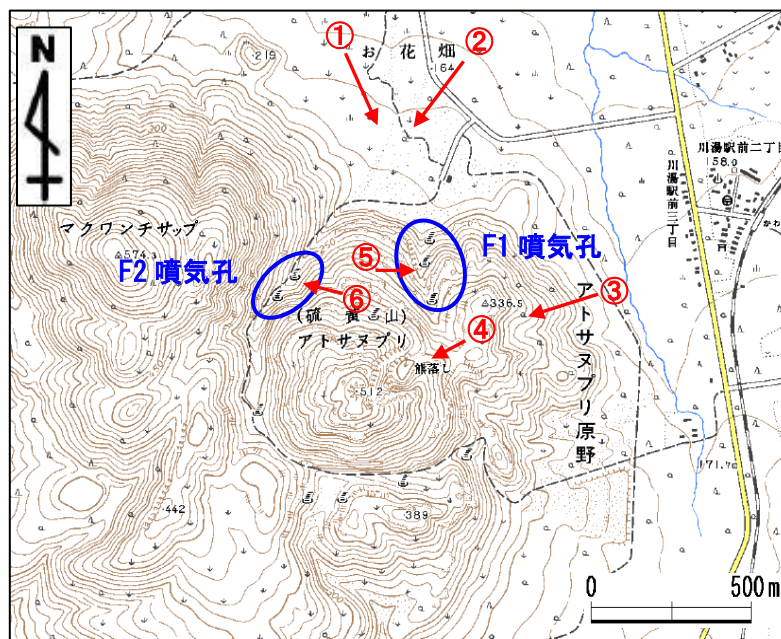


図 1 アトサヌプリ 周辺図

この資料は札幌管区気象台のホームページ (<http://www.sapporo-jma.go.jp>) や気象庁のホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 20 業複、第 647 号）。

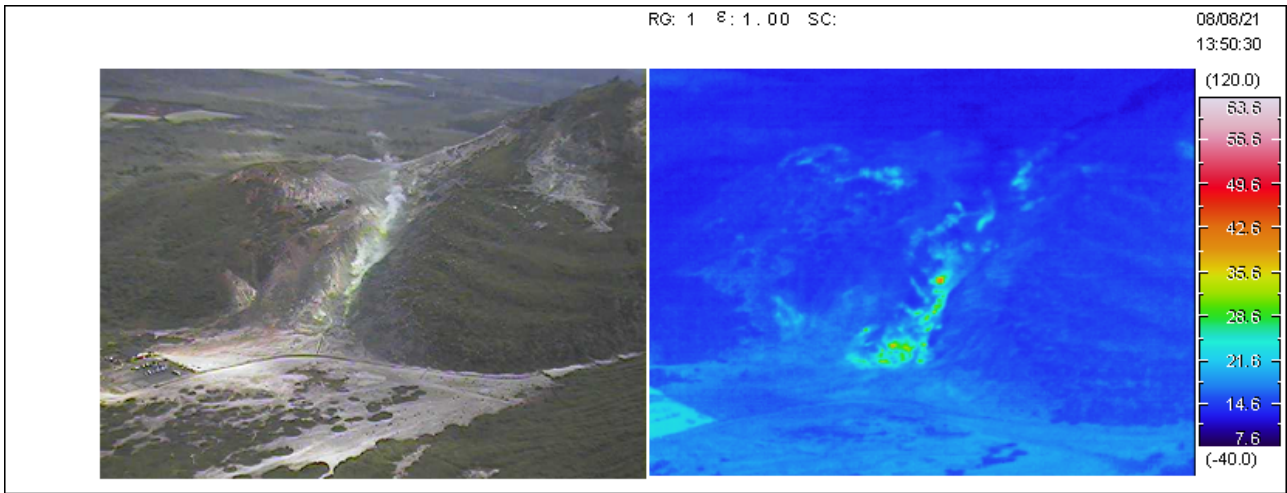


図 2 アトサヌプリ 赤外熱映像装置¹⁾による地表面温度分布
(2008 年 8 月 21 日 図 1 の①方向上空より撮影)

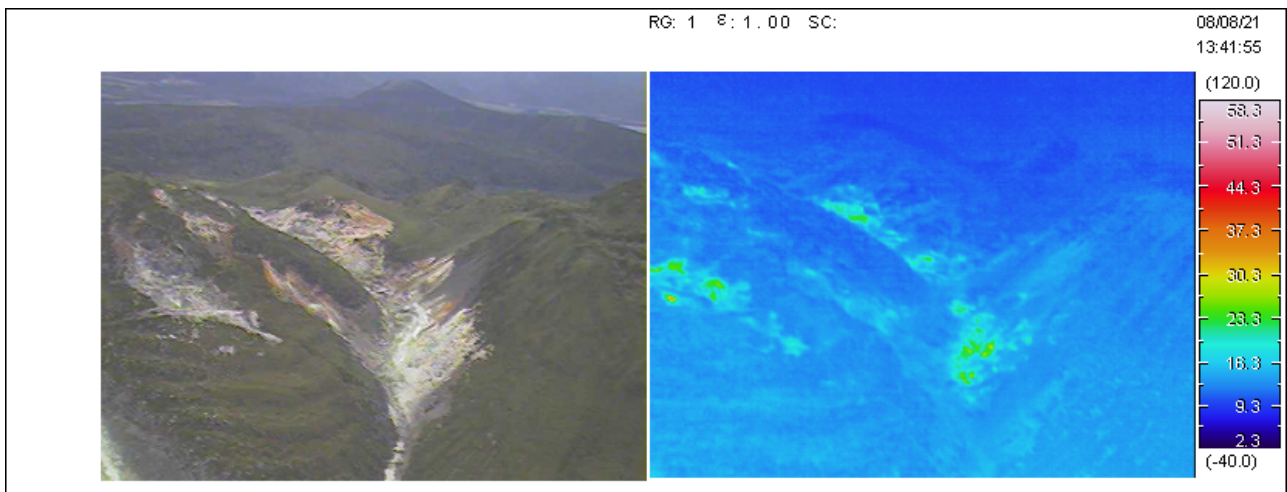


図 3 アトサヌプリ 赤外熱映像装置¹⁾による地表面温度分布
(2008 年 8 月 21 日 図 1 の②方向上空より撮影)



図 4 東側上空から撮影した熊落し火口の状況
(2008 年 8 月 21 日 図 1 の③方向上空より撮影)



図5 アトサヌプリ 熊落し火口の状況
(2008年7月8日 図1の④方向から撮影)



図6 アトサヌプリ F1 噴気孔群の状況
(2008年7月8日 図1の⑤方向から撮影)

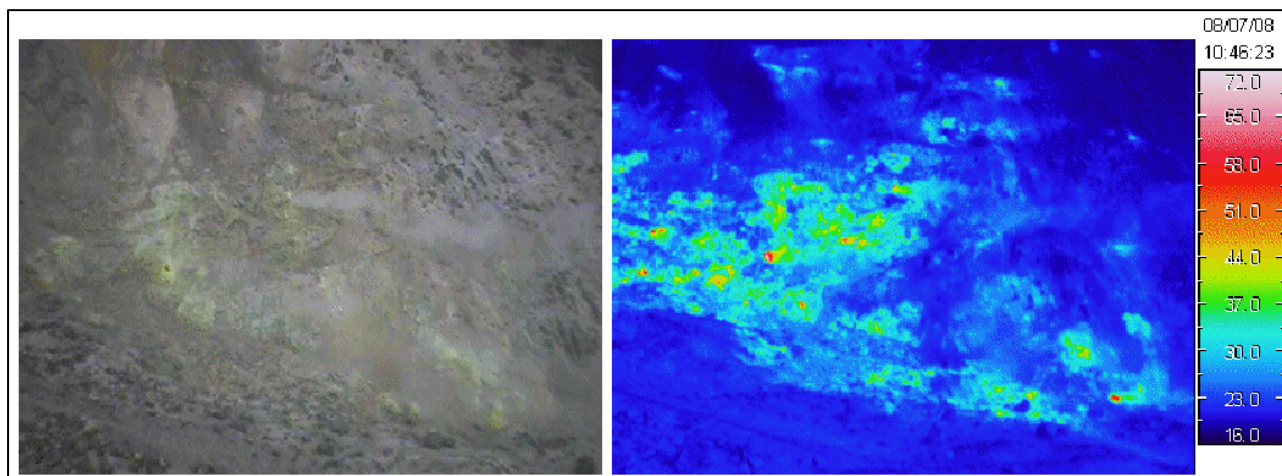


図7 アトサヌプリ F2 噴気孔群の地表面温度分布
(2008年7月8日 図1の⑥方向から撮影)

温度[°C]

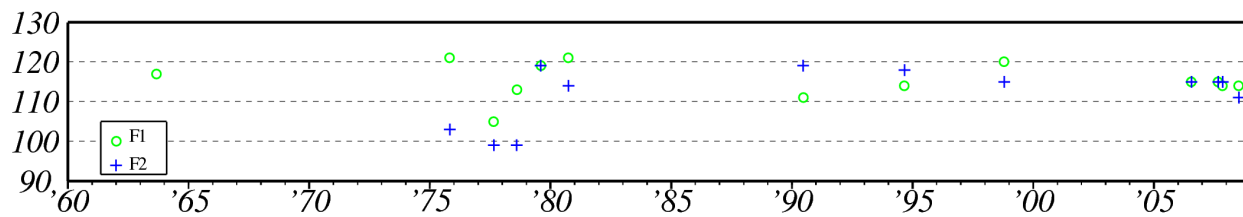


図8 アトサヌプリ F1・F2 噴気孔群の温度変化 (1963年～2008年)